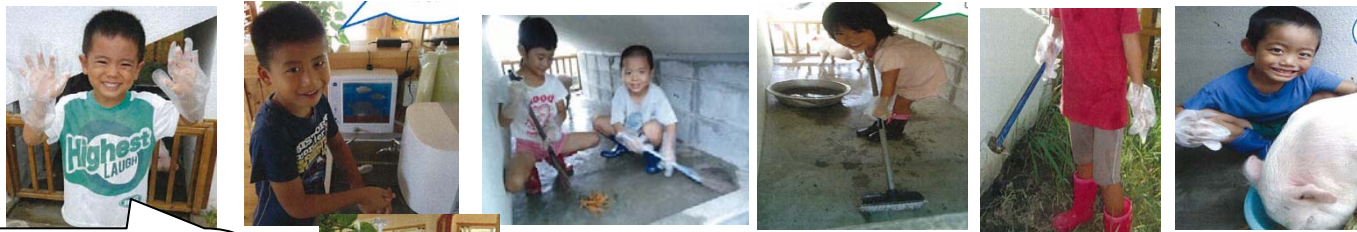


ミニブタの飼育に必要な物

社会福祉法人あおぞら福祉会あおぞら第2保育園（沖縄県南城市）

保育園で育てることになったミニブタ“はな”の世話を、毎日していた子どもたち。「きれい好きなはずなのに、家が汚い」「外にいる時は、決まったところに糞をしているのに...」「なんか元気がないみたい...」と、いろいろなことに気付き、ミニブタとの豊かな体験を重ねた。体調を崩したミニブタのための大きな小屋ができると、それまで世話をしていた時から予想していた通りに、小屋の中でも決まったところで糞をすること、決まったところで餌を食べたり寝たりすることが分かった。ますます世話が楽しくなった子どもたちは、掃除する場所によって道具も使い分け、喜んでミニブタと関わり、いろいろなことを知った。



手袋：軍手だと中に染み込んでしまうので、ビニールの手袋を使っています。

お世話の後には、しっかり手洗い！（流水式洗浄除菌水）

いろいろな道具をうまく使い分けて、きれいにします。

こんなにいろいろ分かった

☆ミニブタ“はな”の体の仕組み☆

目の中にまつ毛が入ったり、眼やにがたまらないように、体を洗う時にチェックしているよ。

耳の掃除をやらないと垢がたまって大変！毎日磨いているよ。

耳の後ろを触られると喜ぶよ。

嬉しい時、体の調子が良い時にはしっぽをあげて喜んで振っているよ。調子が悪い時や、警戒している時には、お尻にピタッとくっ付けているよ。

ニオイを嗅いで、目の前の物を確認するとても大事な役目をしている。でも鼻汁が沢山出たら、要注意！

白い泡が口が出たら調子悪いからよく見てね！オスのミニブタは歯（牙）も生えて出てくるから気を付けてみようね！

アゴの下はとっても柔らかくて気持ちいいよ。ここを触ると喜ぶよ。

毎日、お腹の下を触ったり、目、口、うんちを見て体調のチェックをする。

爪はとっても滑りやすいので、床がツルツルしたところは歩く時は危険！滑ると骨折することもあるから気をつけよう！

みどころ

飼育活動は生き物との関わりを深め、観察したり飼育動物の思いになったりすることができます。飼育活動ならではの豊かな気付きをすることは、生き物、餌、糞という対象だけでなく、生態にも関心をもって様々な道具を使い分けたり世話をしたりすることに繋がっています。日々の細やかなかわりは、観察する力にも繋がっています。「科学する心」が育まれたことを、子ども自身が感じ取っている自信が伝わります。